

大学入学者選抜試験における記述式問題出題に関する 国立大学協会としての考え方

平成28年12月8日

国立大学協会

11月4日に小樽市で開催された国立大学協会と文部科学省の意見交換会において、文部科学省から、懸案となっている平成32年度から実施予定の「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」（以下、「新テスト」）における記述式問題の出題方式、採点方法等についての新たな提案がなされた。その内容は、2つのパターンの記述式問題を国語科の試験の中で出題するとするものであり、より深く思考力・判断力・表現力等の能力を問う中～高難易度の問題のパターン1と、80字程度の短文記述式により基盤的能力を問う中難易度の問題のパターン2から構成される。前者の採点は学生が受験する各大学が行うのに対し、後者は大学入試センターが採点し段階別評価まで行い、各大学が確認・活用するという制度設計である。

文部科学省からの本提案を受け、国立大学協会としての大学入学者選抜試験における記述式問題出題に関する現時点での基本的な考え方を以下に示す。

- (1) 国立大学は、大学入学者選抜全体（共通試験・個別試験）を通して、論理的思考力・判断力・表現力等を評価する記述式試験を実施し、高等学校教育と大学教育双方の改革の推進に資する。

とくに高等学校教育への波及効果の観点からは、「新テスト」における記述式試験は国公立大学を通じた多くの大学が利用可能な設計が不可欠である。また、国立大学としては、高大接続システム改革に積極的に参画し主導していくために、個別試験においても記述式試験の実施により論理的思考力・判断力・表現力等を適切に評価する。

- (2) すべての国立大学受験生に、個別試験で論理的思考力・判断力・表現力等を評価する高度な記述式試験を課すことを目指す。

ここでいう高度な記述式試験のイメージは、例えば、複数の素材を編集・操作し、自らの考えを立論し、さらにそれを表現するプロセスを評価できる問題であり、そのような問題を各大学（学部）がアドミッション・ポリシーに基づいて作題し、大学入学者選抜要項等において出題意図、求める能力等を明確にした上で受験生に課す。なお、その具体的な内容、方法等については各大学の主体的な判断に委ねる。また、教員構成等の理由で問題を独自に作成することに困難を抱える大学にあっては、大学間の合意・調整が整えば複数の大学が協働して共通問題を作題することや後述(4)のように当面新テストのパターン1を活用することもありうる。

(3) 「新テスト」のパターン2を、具体的な問題例と採点基準等を今後十分に吟味・確認した上で、5教科7科目の中の国語において、国立大学の一般入試の全受験生に課す方向で検討する。

より多くの大学が利用可能な制度設計として、「新テスト」のパターン2の提案は一定の評価ができる。ただし、その実現のためには、今後、大学入試センターにおいて、論理的思考力・判断力・表現力等を一定レベルで包括的に評価するための出題内容の質保証に加えて、円滑な試験実施可能性や採点の公正性担保などさらに厳密に検討されることが大前提となる。今後、具体的な問題例と採点基準等を十分に吟味・確認した上で、国立大学の一般入試の全受験生に課すことを検討したい。なお、大学入試センターは責任をもって段階別表示のデータを提供し、提供されたデータについての各大学の活用方法については、各大学が自由に工夫できるようにすべきである。

(4) 「新テスト」のパターン1を、個別試験として課すべき記述式試験の選択肢の一つに位置付ける方向で検討する。

当面は、各大学の判断により「新テスト」のパターン1を個別試験として課すべき記述式試験として選択し、各大学においてその採点を行い入学者選抜に活用することが考えられる。パターン1の問題の質保証が前提となるとともに、今後大学の負担軽減方策が示されれば選択肢としての実現可能性は高まる。

なお、「新テスト」においてパターン1とパターン2の双方を組み合わせる出題することについては、試験実施上の観点や受験生の立場からすると、同一の試験時間の中で、2つのパターンのいずれか又はその両方を解答させることとなり、複雑で混乱を招くことも懸念されることから、その点を配慮した方策も必要である。例えば、パターン1を「新テスト」の中で実施するのではなく、パターン1に相当する記述式問題を各大学の個別試験問題として活用することができるよう、各大学の求めに応じて、大学入試センターが提供するという方法についても、各大学の試験時間の調整などの技術的課題への対応方策を含め、検討すべきであろう。

今後の「新テスト」の記述式問題の具体的な内容・方法に関する検討においては、試験実施上の課題や受験生の立場にも十分配慮することが求められる。また、マークシート式問題についても、各教科・科目の特性を踏まえつつ、その作問の改善を図り、「新テスト」全体として、論理的思考力・判断力・表現力等を評価することが重要である。さらに、大学や高等学校における「新テスト」利用の在り方等に関する議論を深めるためにも、多くの問題例や採点基準が早期に示されることを望みたい。

最後に、国立大学協会としては、プレテスト等を通じた「新テスト」のパターン1及び2の実現可能性についての今後の検討プロセスに積極的に関与する用意があることを付言しておく。

以上